

## 子育て支援・少子化対策県民会議での主な意見

## ■令和6年度第1回子育て支援・少子化対策県民会議 (R6. 8. 27)

## 1 若い世代から選ばれる雇用環境の整備

- ・企業の役割は何なのかと考えると、就労雇用環境の改善として、所得が増える、増やさないといけない、財政支援で雇用を改善させ、共働き・共稼ぎ・子育てを実現させていくことを社会に浸透させていくことはもちろん、新たに新規創業、新規事業開拓、県内への企業の誘致によって新しい商品やサービス、そういったものを創り出して雇用を生み出していくことや、働き方改革の中でも、ワークライフバランスのうちのワークではなくてライフ、こちらの充実への取り組みによっても、結婚、子育て、こども支援に結びつけることも大変重要だと考えている。
- ・例えば「とやま女性活躍企業」として認定・表彰することによるブランド力向上策、人材確保の支援などをもっとマスコミに取り上げてもらい、県内企業には働きやすく良い会社が多いことを、高校生までの間に認識してもらうことも大事だと思っている。
- ・多くの企業は人材確保について不安を抱えているが、逆に若者にとっては、働きたくても希望する職種や、労働環境がない状況になっている。企業のブランディングを掲げ、ウェルビーイング経営を推進していくことで、雇用や経済への影響はもちろん、子育てについても良い影響があるのではないかと。以前は、賃金が最初にあったかもしれないが、最近では、こどものこと等、ワークライフバランスを重視される方がすごく増えてきた印象がある。企業もそれに対応して変わらないといけない。
- ・富山県は製造業が多く、なかでもライン業務に従事している男性が多いが、ヒアリングを行ったところ、ライン業務に従事している人が育休や時短勤務を取った時にはどの企業も補填をしている。ライン業務に従事している人が、交代勤務、夜勤ができなくなった場合どうしているかについては、配置転換や、職種転換をしてもらっているという回答もいくつかある。その後、復帰された後の人事評価はどうされているかに関しては、標準評価だけではなく、残念ながら少しマイナス評価をしているという企業もあると聞いた。ライン業務はマンパワーが必要な業種であり、この点を何とかしていかないと、富山県の男性の育休はなかなか進んでいかないのではないかと。なかでも職種転換は、それまで築き上げたキャリアが、1度ゼロベースになるので、そうした点を県として支援し、また企業のそうした課題解決に向けて取り組む姿勢も支援いただけないかと思っている。業種ごとの課題を把握し、きめ細かい支援をお願いしたい。
- ・出生率の高い先進国と比べると男性の育児参加、関わりがまだまだ少ないと感じている。実際に子育てが大変な生後1年間、母親と父親が共同で子育てをしていけるような職場環境の推進や社会的気運の醸成をもっと進めていく必要があるのではないかと。
- ・「男性の育児休業取得率」の目標指標について、取得期間も追加してほしい。実際に取得されている育児休業の期間は5日未満や1週間が多いが、それは育児休業ではないと思う。男性の育児休業促進のためには、企業の人員確保やその人員確保に関する経済的な支援が必要という意識調査の結果も踏まえ、そういう点に関して支援があれば、取得期間ももっと伸びると思うし、取得する側も取りやすいのではと思った。
- ・経済界に身を置くものとして、子育て支援にネガティブな会社、あるいは、若者・女

性に選ばれるような環境づくりに対応できない企業に未来はないという危機感をしっかりと啓発をしていきたい。

- ・この計画を実効性あるものにするためには、あらゆる政策を導入する必要があり、行政と経済界側が連携をしていくことが多々あるのではないかと思う。例えば、子育て支援に対してしっかりとした取組みをした企業等へのインセンティブみたいなものがあるのも良いのではないか。具体的には、えるぼし認定の企業には、県から、何らかのインセンティブがある等の制度があれば、より啓発をしやすいと思っている。

## 2 若者・女性の転入・定着の促進

- ・若い世代、特に女性の流出に対して、重点的に施策が盛り込まれた計画となっている。昨年の富山県の20代人口の流出状況は、対前年20代人口に対して男性が約1.5%減、女性は2.1%減で、大した数ではないかのように思えるが、毎年減り続けていて、かつ他の年代よりも悪い状況にあり、このままの状態では推移した場合、20代女性人口は今後10年で現在の8割程度に減少する。対して男性は86%ぐらいとなる。今以上に20代男女の人口に差がつき、若い男性が非常に結婚しにくい状況が人口動態的に作り上げられてゆく。
- ・県外へ行った若者、特に女性が戻って来ないことに関して、本当は戻ってきたいと考えている若者もいるのではないかと思う。戻ってこようと思えば就職試験を受けても、自分の思ったところで働けないとか、少し働いたらすぐ転勤になってしまうという理由で、ワークライフバランスが上手くかみ合わなくて、思うような生活ができていない人達もかなり多いのではないか。企業の方には、ただ社員をその企業のために働かせるだけでなく、社員が満足して生活できるようなことをどんどん考えていただきたい。
- ・乳幼児期には、「アタッチメント」と言われる愛着形成がとても大事。病児・病後児保育の充実は大切だと思うが、病気になった時に、誰か他の大人が面倒を見てくれるからお父さんやお母さん、あるいはそれに代わるような人が行かなくても大丈夫ですよ、というサービスが充実していくようなことは、本当にそれで良いのかと思う。そういう時に企業が「安心して行ってきて」と言ってもらえるような、柔軟な働き方が大切なのではないか。
- ・コストはかかるが、精神論だけでなく奨学金の免除のような施策を組み合わせ、若い人たちに地元に戻ってきてもらう取組みが必要ではないか。

## 3 ライフプランを考える機会の充実

- ・ライフプランを重視していることは望ましいが、働き方のライフプランだけではなく、長いライフプランを描けるようにしてほしい。よく「育てられるものから育てるものへ、あるいは育てられるものから育ちを支援するものへ」と言われるように、自分の生活の変化を具体的にイメージできるようなものがあると良い。
- ・今も一部取組みが進められているが、高校生ぐらいの時に、保育園や子育て支援センターなどで、こどもや子育て中のご両親と触れ合い、将来において家庭や家族を持つこと、子育てをすることの意義、また命の大切さを考える機会をもっと作ってほしい。富山県には、キャリア形成について仕事について考える機会として、社会に学ぶ14歳

の挑戦が特徴的な事業としてあるが、高校生ぐらいの時に、例えば家庭や子育てについて体験学習を必ず行うぐらいの取組みを進めていただければと思う。

- ・ 今後も、プレ妊活をはじめ、いろいろな機会を設けていただき、結婚して子どもを出産することや、人間が多いと楽しいものだということ、お父さん、お母さん、それからおじいちゃんおばあちゃんに育ててもらった代わりに自分たちが成人を迎えて働くようになったら恩返しをしているのだということ、できるだけ学生時代に知っていただきたい。
- ・ 結婚すること、あるいは子どもを持つことは、経済的、そのほかいろいろ大変ですよと言われること自体が、結婚すること、子どもを持つことに対するハードルを上げている1つの要因だと思うので、幼児教育に携わる者としてできることの1つとして、結婚すること、あるいは子どもを持つことによってこんなに楽しく、新しい繋がりができることを、独身の方等に見てもらおう機会がつかれると良いのではないかと考えている。

#### 4 出会い・結婚の希望を叶える支援

- ・ 年齢別初婚件数について、富山県は、全国と同様、男性と女性が同じところにピークが来ている。人口構造的には、20代の男性が余っているので女性が相手を選ぶ立場にある。結婚の適齢期になると自分と同世代の男性を選んでいることがはっきりとわかり、非常に特徴的で注目すべきポイントである。機会均等や両立に理解がある、より若い男性に婚活女性の手が伸びているということもご理解いただいた上で、若年男性の結婚難をこれ以上招かないような企業へと雇用改革を行っていただければと思う。

#### 5 子ども・若者・子育てを社会全体で支え合う気運の醸成

- ・ 具体的な指標について件数や実施箇所数という客観的な指標は重要ではあるが、子ども大綱の目標や指標では、「生活に満足している」と思う子どもの割合とか、漠然とはしているが「夢や希望を持つ」ではなくて、「自国の将来は明るい」と思う子ども・若者の割合など、実感としてどうなのかという指標になっている。本計画でも、実際に子どもや若者がどう感じているかという指標を加えていただけると良いのではないか。
- ・ 子育て中の家族から「安心して遊べる屋内施設」があると良いという話を聞くので、新たに整備される「新川子ども施設」について大変期待している。
- ・ 雇用に関して、例えば、子育て中の人を雇用すると県民税が減免されるという制度を作ることができないか。というのも、「明日運動会だから、ごめんなさい、会社を休ませてください。」と話す社員は、子育てもしていて、なぜ会社に謝る必要があるのか。そうではなく、会社の人、この人がこの会社にいるおかげで、県民税が減免されるのだから、謝る必要はなく、会社に対して負い目を感じることなく、気にせず休めるような、そんな方法がないかと思った。
- ・ 目標指標に掲げられた「子育てを楽しんでいる」という瞬間を、この後どのようにして創出していくのか、早い段階で知りたい。

## 6 経済的負担の軽減

- ・「とみいくデジタルポイント」は、素晴らしい取組みであるが、配布が1歳半時になっている。こどもは1歳で保育園に入園するが多い。1歳前に子育て支援センターにやって来るこどもたちにはチャイルドシートが必要である。そのほか、子育てでいろいろなものを購入する必要があるのに、1歳半時まで配布されないことは残念である。
- ・「とみいくデジタルポイント」について、1ポイントから使えるという点はあるが、配布がなぜ1歳半時になったのかと感じている。生まれてすぐ、生まれる前からお金がかかるところにそのポイントが使えたら嬉しいし、子育てでいろいろなサービスを利用したいと思った時にもお金がかかり、経済的負担となるため、ポイント等支援があればすぐに利用したい。配布する時期やそのポイントが使えるサービスの充実をお願いしたい。
- ・子育てにかかる経済的負担の軽減や子育て支援に関して、三人目になると保育料が無料になり、電気代も助成してもらえる。三人目になるといろいろ安くなって良いねという話を聞くが、望んでいるこどもの数が持てず実際数が一人、二人が多いというデータを見ると、三人目から手厚い支援があるのはありがたいが、一人目、二人目から手厚い支援があると、じゃあもう一人産んでみようとなるのではないか。

## 7 こども・若者、子育て当事者のライフステージに応じた切れ目ない支援

- ・病児・病後児保育室がたくさんある地域とない地域があり、たくさんあっても、こどもが病気になりやすい季節になると、予約でいっぱい利用できない場合もある。県外の地域では、普段通っている保育園が病児・病後児保育室を担っている保育園もあると聞いたことがある。こどもが病気になると回復まで数日かかってしまうことから、病児・病後児保育室が、もう少しいろいろな方が利用できる状態になり、普段通っている保育園でも利用できる環境になると良いのではないか。
- ・放課後児童クラブの待機児童数は、ゼロになることが良いことなのか。今のお子さんは、アレルギーを持ったお子さん等一人一人に気を配る必要があり大変。待機児童数をゼロにするならば、学童を運営できるような方法をまず考えていただき、数だけが先走りするようなことがないように、学童に入れない子がないことが良いことではないということを考えていただけたらと思う。
- ・最近是不妊の話も聞くが、不妊の段階が上がっていくと、治療のために急に休まないといけないという話も聞くので、そういう急な休みを取りやすくなると良いと思う。

## 8 様々な困難を抱えるこども・若者への支援や居場所づくりの推進

- ・障害のあるこども、あるいは重篤な疾患を抱えているこどもの親御さんに対するケアについて、受け入れてくれる保育園が県内で非常に少ないと認識している。大変な障害や疾患を抱えている状態になった時に、キャリアプランが大幅に狂ってしまうので、そういう状態の親御さんが、離職という選択肢しかない社会は、改善する必要があるのではないかと感じている。

## 9 その他

- ・今回の計画は、新たにこども基本法・こども大綱が作成され、こども主体、こどもにとっての政策という視点転換がポイントになっていることから、こどもや若者に対して、将来だけでなく現在の充実、すなわち、今に幸福感がもてるようになること、あるいは自治体がこどもや若者の意見を聴取し、実現してくれるという期待感をもてるようなメッセージが伝わる内容になると良いのではないかと。例えば「計画策定の趣旨」に「こどもが安心して」や「個性が尊重されて」といった文言を入れられないか。また、「計画の目標」について、将来ももちろん大事だが「今も大事」ということが、伝わるように言葉を補うと良いのではないかと。
- ・従前の計画では、踏み込みが弱かった部分、雇用環境を中心とした経済分野の施策、県外に出ていった方々をどのようにしてまた呼び込んで定着していくかという富山県の外への視点、そして、ライフプランを通じた将来にわたる未来への視点、経済分野、外への視点、未来への視点にかなり踏み込み、施策の充実を図ろうということ盛り込んだことが、今回の計画の特色だと思う。その反面、今回の基本計画は、新たにこども基本法に基づく都道府県こども計画としての視点も持っている。さらには、こどもまんなか社会の推進ということで、こどもにとってどうかという視点は、本丸で一番大事なところである。こどもに対する視点、将来にわたってだけでなく、こどもの今が幸せであるという今を充実させる視点、現に富山県の中で学び、そして暮らし、生きている方々への施策の視点、こども、そして今、それから内への視点も大事である。こどもと今と内を大事にしなければ、未来はないと思う。
- ・「若い世代から選ばれる」が計画のキーワードとして適切だと思うし、特に雇用環境は重要であるが、雇用環境以外の点も施策の方向性に含めると良いのではないかと。
- ・この計画を、今後丁寧に進めていただきたいが、これだけの広くて深い計画なので、実際に実行に移すとなると、漏れていく施策等もあるのではないかと心配している。実際に担当する方々で情報を交換し、あるいは評価をお互いにするすることで、自分達が思う方向へ進んでいるかをきちんと評価しながら進めてほしい。
- ・幅広い分野で細かく施策が計画されていて、これが実現されれば効果が出ると思ったので、対象となる人だけではなく、いろいろな人にこの政策や、活動を知ってもらう機会を作っていくことが大事だと思う。
- ・ある調査では、県民の県の施策に対する一番の要望が「少子化・子育て」であった。県民にとって富山県の人口が100万人を切った中で、少子化に対する危機感があり、「少子化・子育て」に対してしっかり向き合うことが必要だという思いが調査結果に反映されているのではないかと。